

住みごこち一番・可児 —～安心、元気、楽しいまち～の推進

伝承

歴史と文化を後世へ受け継いでいく



可児市明智城跡

令和5年度 三大ニュース（実績）

11月24日～12月7日

人権教育優秀校表彰式

（本センターキャラクター誕生15周年記念）

小学校の部…①春里小学校 ②南帷子小学校
 中学校の部…①西可児中学校 ②広陵中学校



◀南帷子小学校

12月10日

「令和5年度人権啓発展示」参加

場 所 マーサ21 1Fマーサスクエア
 主 催 岐阜県人権啓発活動ネットワーク協議会
 担 当 法務局・県



年 間

学校への支援

- ・標語（23周年）、300字小説（16周年）
- ・ぬくもり教室（12周年）
- ・人権本巡回（15周年）
70冊×2コース全小学校巡回



（東明小、南帷子小で開催） ブックスフロア準備風景

ぬくもりのよろこび

「私が入権啓発センターの推進員」 機関紙担当リーダー I・K

2年前、私が「可児市人権啓発センター」の推進員となって最初に感じたことは、「人権」について関心はあっても、今までニュースで地域紛争や子供のいじめ問題等を見聞きするだけで、深く考えたことがなかった実情でした。

縁あって、機関紙「ぬくもり」の編集に携わる機会があり、センターの活動が多岐に渡ることを実感し、感動致しました。

その中でも、各小中学校の児童・生徒及び可児市民からの標語、300字小説の募集は、子どもたちから3,000点近い応募があり、力作ばかりで選考するのに大変苦労したことが嬉しい思い出です。毎回の応募、楽しみにしています。子どもたち以外の応募も受け付けていますので、是非ともご参加下さい！お待ちしております。

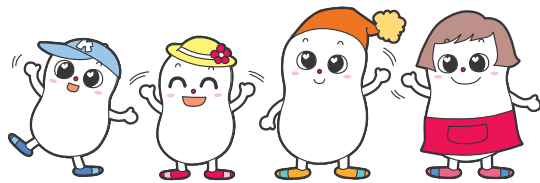
これからも分かりやすい機関紙をお届けできるよう、事務局と力を合わせ、推進員一同頑張っ

て参ります。



特集 令和5年度

(審査員：他団体の代表と関係者)



第23回 人権啓発入賞[標語]の部

2,558作品より選考

【最優秀賞】

くらべない 一人一人が 主人こう
三浦 しん (小学四年生)

【優秀賞】

いじめの根 みんなの力で ぬいてやれ
眞木 勢矢 (中学三年生)
みとめ合おう みんなのこせい わらわずに
太田 美き (小学四年生)
多様性 認め合う心 明るい社会
久保 寛太 (中学一年生)
感謝はね 笑顔の花の たねになる
梅田 あい (小学四年生)
見守る手 強くやさしく 背中おす
浅賀 優希 (小学六年生)

【入選】

守りたい 人それぞれの 人権を
小林 彩花 (中学三年生)
その言葉 「ハツ」と気づこう 言っ前に
松井 莉愛 (中学一年生)
人と人 みんな違って 和を奏でる
PN..雪ん子 (一般)
「それいいね」 そんな言葉で 認め合っ
和下 茉央 (小学六年生)
逃げていい 心の居場所は きつとある
安藤 りせ (小学六年生)
優しさが 相手を励まし 変えていく
山本 尋 (小学六年生)
踏み出せた その一步には 仲間の声
二川 日知栞 (中学二年生)

さしのべた たった一つの 手で笑顔
松岡 光哉 (中学二年生)

努力とは むくわれなくても 軌跡は残る
宮崎 音々加 (中学三年生)

立ち向かえ 自分の意思を 行動に
柴田 康成 (中学二年生)

まよわずに 正直な心で あやまろう
福山 嘉菜 (小学五年生)

思いやり その一心で 動けたら
長はま みらな (小学三年生)

今日もまた みんなのえがお 見つけたよ
やすえ しゅん (小学二年生)

ていねいに 目を見てはなす えがおでね
今えだ り子 (小学二年生)

思いやり 言葉ですくっ ありがとう
泉木 穂佳 (小学三年生)

さりげない 優しさつなぐ 仲間の和
熊崎 綾人 (中学一年生)

泣いている 君の心に 僕の傘
梅田 清那 (中学三年生)

暴力は 手足だけじゃない 言葉でも
杉山 悠斗 (中学二年生)

こちよい 心が晴れる ひとことを
星野 遥己 (小学六年生)

わたしから 本気のあいさつ ありがとう
北原 実和 (小学五年生)

「ありがとう」 心のいたみ 癒す薬
山本 咲耶 (中学二年生)

君の声 どんな時でも あつたかい
高橋 ゆうな (小学五年生)

話す時 わらい合おうね いつでもさ
深澤 七星 (小学四年生)

むくわれない きめつけなくて その心
若尾 真佑 (小学五年生)

第16回 人権啓発入賞[300字小説]の部

354作品より選考

【最優秀賞】

伊藤 りこ (小学六年生)

母のお弁当

朝はかならず、母がおこしてくれる。毎朝早く起きて、お弁当をつくってもたせてくれる。あたたかい「母の味」のつまったお弁当を食べるだけで、悲しいことも忘れることができる。私にとつては、「母の味」はそんなものだった。ある夜、母とけんかをした。悪いのは、完全に私。でも認めたくなくて、あやまらなかつた。次の日の朝、母はいつもどおりに起き、一言も話さないが、お弁当をもたせてくれた。それはとてもあたたかい。家を出るとき、まだ認めていないのに、口が勝手に動いた。「昨日はごめん、いつもお弁当ありがとう。いつてくるね」と言った。心は晴ればれとし、母のお弁当のようにあたたかい。「いつてらっしゃい」あたたかい声だった。



【優秀賞】

僕の大好きな色

西澤 このみ (中学一年生)

「僕、ピンクが良い。」
しまった、と思った。
馬鹿にされてしまう
かもしれない。僕は
男だけど、ピンク色
が好きだ。他の人に
馬鹿にされるのが怖
くて、いつも青色と
か、緑色とか、男ら
しい色を選んでい
るのに、どの色の画
用紙が良いか聞かれ
て、ついピンク色を
選んでしまった。慌
てて言い直そうとし
たその時、誰かが
言った。

「ピンク色、良いよね。
僕もピンクが良い。」
馬鹿にされるかもし
れないと思っていた
自分が恥ずかしく
なった。「男らしい
色」を勝手に決めて
自分をしぼりつけて
いたのは、自分だっ
たのかもしれない。
誰かが言った。
「へえ、2人ともピ
ンク色が好きなんだ
ね。」
「っん、大好き！」



【優秀賞】

価値観の違い

中村 魁鬼 (中学一年生)

ほくには友達がい
る。しかし、今ほく
らはけんかをしてい
る。価値観の違いだ。
僕の意見と友達の意
見がなかなか一致し
ないのだ。今まで僕
らは意見をなんとか
一致させて来たのだ。
だが今回はなかなか
一致しなく、空気が
悪いのだ。中々、仲
直りが出来ず、とて
も困っていた。ある
日、お父さんにこの
ことを相談してみた。
するとお父さんは、
「そんなこと、一致
しなくてもよくない
か。」そう言われた。
その時は、こんな
ことに気づいた。
「別に一致なんかし
なくても、おたがい
の意見のよさを認め
ていけばいいんだ。」
次の日、僕たちは仲
直りが出来た。いろ
んなことを認め合い、
よさに気づくことが
けんかや争いを止め
るんだ、と僕は思っ
た。



※挿絵は入賞作品をもとに本センター事務局長が作成しました。

【入選】

僕らが花の種

小山 結衣 (小学五年生)

花が咲いていた。水を一滴もやっていな
いの。どうしてなんだろう。そう思った
時、花のつぼみが、さらに大きくきれいに
開いた。それはなんとも不思議でいい
に花を持って帰った。本で調べた。だけ
出てこない。インターネットでも調べた。
それでも出てこない。そこで、植物にく
わしい母さんに、
「母さん、このお花、なあに」と
と聞いてみた。すると、
「ああ、そのお花は、笑顔の花よ。みんな
が笑顔になると、どんどんきれいになる花
なの。本当にきれいなねえ。」
と言った。もう一度その花をみてみた。さ
きよりもっときれいな花になっていた。僕
は笑顔はずっと守り続けた。そう思った。

【入選】

「大丈夫？」の一言

片山 恵里奈 (中学一年生)

私は十人家族。父と母は共働き。長女の
私か家の仕事を全てやっている。妹や弟た
ちは、ゲームをしたりマンガを見たり。一
番下のらら(二才)は、いつも泣いている。
ららをあやすのにも体力をつかい、疲れる。
中学生の私は、勉強もやらなければなら
ない。だけど、家事は私がやらなくては。だ
んだん私はためこんだ気もちでつらくな
った。私は泣くことが多くなった。数日後、
せんとく物を干している時、となりのおば
あちゃん「大丈夫？」と声をかけてきた。
その言葉で私はなみだが出てきた。おばあ
ちゃん「何でも話してええんやよ。」と
言ってくれた。それから私は心が楽にな
った。毎日笑顔で過ごしている。「大丈夫？」
の一言を、私は今でも忘れない。

【入選】

小さいころの自分は何をしていたんだ？

山口 結愛 (中学一年生)

「明日がくるのが少しいやだ。」そんなこ
とを毎日考えてしまう。小さいころは、人
が悲しい思いをしているのを見て、「なん
で自分と関係ないのに助けなきゃいけない
の？」と思っていた。でも、今は違う。あ
のときのあの子はどんな思いをしていたの
かな？自分は今すぐく助けてほしい。あの
子も同じように思っていたのかな。助けて
あげればよかったなあ。と今になって思いは
じめた。ある日の授業で「いじめられてい
るのを見ているのに助けてあげないのは、
いっしょにいじめられているのと同じだよ。」
ということ聞いた。それを聞いて「小さ
いころの自分は何をしていたんだ？」と強く
思った。たつた今自分もいじめをしてい
たことに気づいた。

【入選】

トンネル

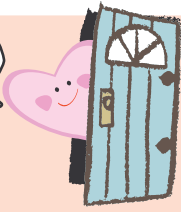
山田 莉未 (中学二年生)

暗い、暗い、闇の中で私は一人歩いていた
「近くに誰かいませんか？」心の中でそう、叫
びながら、ただ一人ひたすらに歩いていた。
すると、突然、
「大丈夫だよ」と声をかけられて、顔を上げ
声のする方を見ると、優しいような顔の人が
立っていた。よく見るとたくさんの人たち
に囲まれていた。そこで私は気づいたのだ、
周りを見ず、声も上げず、私は一人だと思っ
ていた事に。これまで感じていた不安や、
孤独感が一気に無くなり、涙が溢れていた。
私は、「ありがとう、いつもそばに居て
くれたのに気づかなくてごめんね。」と伝
えるとみんな笑顔でうなづいてくれた。こ
れからは顔を上げ、前を向き、歩いてい
こうと決めた。

※この300字小説の入賞作品はテーマに合わせ創造で書かれた小説です。実在の人物、団体名等とは関係ありません。

複写禁止

心のドア
ちょっと
いい話



「ふわふわ言葉」

ぬくもり まゆちゃん 44

〈思いやりの心〉
作・画：miho

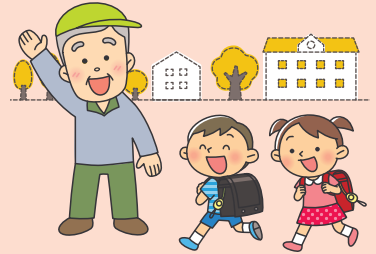


(当センター事務局長による作品です)

私は母校が最後の勤務地で、10数年前に定年退職しました。現職中は「退職後は悠々自適な生活を送りたいなあ。でも何かひとつは地域の為に役立つことをしよう」と思っていました。

私がやれることは、大したことはできないけどウォーキングぐらいならできるので、朝の登校時間に合わせて学校から自宅までの見守りウォーキングを退職してからずっと今も続けています。往路と復路のコースを替えて安全で安心な登校を見守りながら、散歩を楽しんでいます。出会った人のすべてに「おはようございます」と元気な挨拶をするように心がけています。

昨年秋、いつものように復路で出会った子どもたちに挨拶したら、低学年の男子児童から「いつも見守り、ありがとうございます」と声をかけられました。私はとても爽やかな気持ちになりました。そして、これからも体力が衰えない限り、毎朝の見守り活動を継続しようと決意しました。(M・W)



人権コンサートを振り返る

「こんにちは」来場者の一人ひとりに、声をかけながら、人権啓発センターの資料を渡していく。次に、人権パネルを見ていただくように案内をする。今日は、アール小劇場にて人権コンサートが行われる日。

人権啓発センターの日頃の活動の詳細を知っていただく唯一の機会。パネル8枚にまとめて展示。パネル①②標語・300字小説。人権標語が印刷されたのぼり旗と共に、3,000点近い応募の中から選ばれた優秀作品を掲載。パネル③啓発センターの概要。パネル④ぬくもり教室。小学校3・4年を対象に、毎年可児市内の2校に人権教室を開催。パネル⑤高齢者の人権講演会。パネル⑥機関紙「ぬくもり」。パネル⑦⑧人権マンガ。

人権意識は、コロナ禍を経て、より一層高まってきている。人であるからこそ、人と人の繋がりを大切にしたい。展示パネルの標語を見ながら、元気パワー、生きる力をもらっている私がいる。(推進員S・C)



「啓発のひかり」

★月に一度、地区センターでサロンが開かれます。高齢者の方を中心に大勢の方が参加されます。顔なじみの人の元気な顔を見ながらおしゃべりしたり、軽スポーツに興じたり、時にはステキな音楽に耳を傾けたりして、笑顔と明るい声があふれる時間となっています。こういう時間を大切にしていきたいなあと思うこの頃です。(M・O)

★年明け早々の一日に未曾有の災害となった能登半島地震、二日に大惨事となった羽田空港での飛行機同士の衝突と立て続けに災害・事故に見舞われました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに被災された方や残された方にお見舞い申し上げます。(H・I)

★四十年前、放課後の学校のグラウンドは習い事の無い子供たちが溢れ、手の空いた先生や保護者、ベビーカーをひいたお母さんやペットの散歩に来た近所の方で賑わっていました。二〇二四年の今、放課後のグラウンドは…。子どもたちの第三の居場所を作ることが急務だと思います。(Y・M)

★我が家は、ジャンガリアンハムスターとキングマムスター(キヌゲネズミ科の動物)を飼っています。ジャンガリアンのメスは、私に似ていつも動いており、少し気性が荒いです。しかし、オスはあまり運動せず、動きが遅いです。キングマムスターは穏やかな性格で人から手渡してもらう顔も優しく受け取ります。小動物でも一匹、一匹で性格が違います。この世の中色々な人達がいるのは当たり前だとつくづく実感しました。(M・H)